

指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

1月号 令和6年1月9日 第9号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 447 女子 429 名 合計 876 名

新しい年、縁起を担ぐ

～日々是新の心意気～

校長 引間 陽子

令和六年。新しい年を迎え、今年もよい年がありますようにと願う気持ちが高まります。

今年辰年。干支の中でも辰だけが架空の動物。架空の動物が干支の一つになったわけには諸説あるようですが、辰は古来より中国で権力の象徴とされ、縁起の良い生き物とされていたようです。

新年を迎え、いい年にと縁起を担ごうと、兎角、干支の置物を購入したり、今年こそは何か新しいことをするぞと意気込んだりするものですが、歴史上の方々も、新年を迎えた心情を各々表現されています。

俳人の小林一茶氏は、『元日や 上々吉の 浅黄空』という俳句を詠まれています。「元日を迎えたなあ。この上なく縁起の良い浅黄色（浅葱色）の空だ。」と元日からよく晴れた青い空に、新年早々、縁起がよいと喜んでいられる句であります。浅黄という空の色は平安時代から使われていた色名であるそうですが、時代が変わっても、果てしなく広がる蒼空を見上げると、不思議と気分上々となり、これは縁起が良いと気持ちが明るくなります。

また、日本の実業家の松下幸之助氏は「道をひらく」という著書において、『日々是新』という文章を書かれています。下段に掲載した文章を読むと、心あらたまれば、いつでも運命がひらけるとのこと。多くの経験から先人が示唆してくださる道をお手本にしたいと思えました。

今年さいたま市キャラクターのヌウが活躍しそうな年。これも縁起がよいと感じます。皆様、どうぞ、今年もよろしくお願いいたします。

さいたま市
キャラクター「ヌウ」



◇◇日々是新◇◇ ひびしんめい

年あらたまれば心もあらたまると。心あらたまればおめでたい。正月だけがめでたいのではない。心あらたまったとき、それはいつでもおめでたい。

きのうもきょうも、自然の動きには何ら変わりはない。照る陽、吹く風、みな同じ。それでも心あらたまれば、見るもの聞くものが、みな新しい。

年の始めは元日で、一日の始めは朝起きたとき。年の始めがおめでたければ、朝起きたときも同じこと。毎朝、心あらたまれば、毎日がお正月。あらたまった心には、すべてのものが新しく、すべてのものがおめでたい。

きのうはきのう、きょうはきょう。きのうの苦労をきょうまで持ち越すことはない。「一日の苦労は一日にて足れり」というように、きょうはまたきょうの運命がひらける。きのうの分まで背負ってはいられない。毎日が新しく、毎日が門出である。

日々是新なれば、すなわち日々是好日。素直で謙虚で、しかも創意に富む人は、毎日が明るく、毎日が元気。さあ、みんな元気で、新しい日々を迎えよう。

(松下幸之助「道をひらく」より)